

商店街を舞台とした 「城下町高田花ロード」の開催!!

！ここがポイント

「城下町高田花ロード」は、花いっぱいの城下町を再現することを目指し、花をモチーフにした作品を広く内外に公募し、商店街の店先や碁盤状の道筋をその花の作品で飾るイベント。出展者に軒先を提供することで他地域の方とのコミュニケーションの広がりを獲得し、人が花を結び、花が人を結ぶ。



高田本町商店街

【取り組みの背景】

上越市・高田地区においても他地域と同様に、郊外への人口流出や、中心商店街にも空き店舗が増え、人が滞留していない状況にあり、中心市街地の衰退が問題化していた。

そこで、城下町の特徴である碁盤の目のような街割りが残り趣きのある「辻」を舞台に、「市内外に城下町・高田をPRし、街に元気をとりもどそう!」という考えから、平成10年に商店街のおかみさんによる検討委員会を組織、平成11年10月に『第1回花でつくる城下町・高田』を開催。第2回目より『城下町・高田花ロード』に名称を変更した。春の観桜会、夏の七夕・祇園まつり・はすまつり、冬のレルヒ祭と並び、『城下町 高田花ロード』は店街が異空間に歳時記を彩るイベントとして、上越市の

秋を彩る観光イベントとして定着した。

【取り組みの概要・経過】

「城下町・高田花ロード」は、現在3つの商店街の連合組織一本町3・4・5丁目商店街振興組合連合会のメンバーの有志約40名で組織する城下町高田花ロード実行委員会が主催し、上越市民に定着したイベントに成長したが、これまでの10年間、試行錯誤しながら様々な取り組みを行ってきた。

○地元出身のアートディレクター北川フラム氏をコーディネータに迎えて、イベントに芸術性を高めるとともに、近郊で開催される『越後・妻有 大地の芸術祭』会場に出張PRに出かけた。

○JR東日本が行なうSL関連企画や『駅からハイキング』などの事業と連携し、花ロードの展示作品を鑑賞できるルートに誘導し、集客を図った。

○地域住民および団体との協力体制

地元の町内会や学校等に作品の展示場所の提供及び出展参加を呼びかけた。また、花ロード期間中に実施される歩行者天国等のイベントや商店街周辺の地元の各種団体に依頼して、和楽器のコンサートやお茶会など商店街周辺の団体を巻き込んだ回遊性のあるイベントを演出した。以下は、その連携事例である。

・明治時代の西洋式建築が色濃く残る映画館を利用

した寄席やライブ「景観劇場」。

- ・旧商家の土蔵を利用した施設「高田小町」での盆栽・折り紙展、昔の街並み写真展。
- ・あわゆき組&越後高田町家三昧をはじめとする染物屋・麻糸問屋・桶職人などが営んでいた町家巡り。
- ・浄土真宗開祖親鸞聖人ゆかりの寺、浄興寺をはじめ、60余ヶ寺の寺院が建ち並ぶ寺町を巡回ルートに設定、NEO浄興寺プロジェクト、寺町まちづくり協議会が主催する和楽コンサート、あかりの小径などの事業実施。
- ・アート回廊・骨董市・食の広場などを開催しているお馬出しアート遊市との連携。

○空き店舗を利用し地元の物産を展示販売。

【取り組みの効果】

市街地は賑わいを取り戻し、空き缶やペットボトルを用いたエコ作品など環境をテーマにした作品も多い。メインイベントに関連して、合併した旧町村の芸能・文化面の紹介や、着物姿で巡回・子ども達のお菓子づくりなどの催しを募り、地域住民の交流の場を提供している。

3日間のイベントで、約5万人が商店街に訪れるようになった。

【今後の課題など】

ここ数年、知名度も上がり地元周辺および首都圏を含めて遠方からの出展者・観光客も増え、一年を通して来街者の目を楽しませているが、10回目をイベントの節目として、今後の開催内容など、マンネリにならぬよう新たな展開を検討しなければならない時期となっている。



花ロード 2008 記録集表紙

【高田本町商店街】

所在地：新潟県上越市

会員数：3商店街 210店舗

(本町3～5丁目商店街)

商店街の類型：地域型商店街

関連 URL: 本町商店街ポータルサイト

「ホンチョウ ウェブ！」

<http://joetsu.honcho.jp/>



【うちの商店街、ここが自慢】

アーケードが高く、開放感があり、越後の雪国としての暗いイメージはない、とても明るい商店街である。

また、左右の歩道幅が、各4.5mとし、とても広く、ゆっくりと家族・お友達同士で会話を楽しみながら、ウィンドショッピングで、まち歩きが出来る。

城下町の特徴である碁盤の目の「辻」を大事にし、商店街を元気にしようとする、おかみさん達のパワーが自慢である。

全国的にも有名な高校生の チャレンジショップがある商店街

！ここがポイント

商店街で高校生が部活動として地域に密着した駄菓子店を営み、多くの若者が多様な主体としてまちを盛り上げる。



高校生のチャレンジショップ「吉商本舗」

【取り組みの背景】

吉原商店街は、古く江戸時代から東海道五十三次の宿場町の一角として、長い歴史を持つ老舗商店街である。幹線道路に面しているため、商店の前には車が多く行き交い、空き店舗も数多く見られ、かつての賑わいは感じられなくなってしまった。

寂れつつある商店街の活性化を目指してイベント事業を多数行ったが、なかなか活性化するには至らなかった。

そこで、商店街の将来に危機感を持った数名がNPO法人を立ち上げ、まちの活性化に関わる活動を積極的に推進しようということになった。

【取り組みの概要・経過】

NPO東海道・吉原宿では、芸術・文化の視点

で若者やよそ者を巻き込み、チャレンジオフィスやコミュニティスペースで商店街をビジネスや表現の場として再構築する活動を推進中である。

・吉商本舗（H16年7月開店）

富士市立吉原商業高校・商業ビジネス部とNPO東海道・吉原宿が協働で運営する常設店。駄菓子や雑貨、フェアトレード商品等を販売。高校生チャレンジショップのトップランナーとして全国的にも注目を浴びている。

・チャレンジオフィス Y-MICS

（H16年10月開業）

路面店以上に空き店舗率が深刻な階上階の再生モデル事業。まちの活性化に積極的にかかわることを条件に、現在は3つのNPOと2つの事業所が入居。コンセプトは「大人の部屋」。

・コミュニティスペース SUKI

（H18年12月開業）

飲食系チャレンジショップを併設し、現在はスポーツバーに発展。若手異業種交流会も開催されている。

・就労支援施設商品販売 YO-LABO

（H20年3月開店）

吉商本舗の高校生のアイデアで誕生。店内でコーナー展開していた部門が独立し、隣接する空き店舗にオープンした。

・富士市民活動センター・コミュニティ f
(H20年10月受託)

再開発ビルにオープンした市の公共施設を指定管理者として受託。市内のNPOや市民活動団体の拠点として、さらに多くの市民を巻き込むための施設となっている。

【取り組みの効果】

高校生が商店街で店舗運営していることから、若者独特の活気も商店街に生まれつつある。吉商本舗卒業生が商店街の中に自らの店を開いたり、地元大学との連携で商品開発が行われたり、NPOに関わるデザイナーの企画による店舗が複数オープンしデザイン賞を受賞するなど、新規出店が続いている。

また、テレビ番組から誕生したご当地グルメ企画「つけナポリタン」も評判を呼んでいる。

【今後の課題など】

吉原商店街周辺には、徐々に新規出店の店舗が増えてきているものの、依然として点でしかなく、これを線で結び、面に展開していくための仕掛け作りが必要である。

また、商業者個々の温度差はさらに拡大する傾向にあり、将来の空き店舗予備軍への早めの対処が必要である。



新規出店が続出することとなったシャッターアート



人で賑わうヨシワラ・パフォーマンス・オブ・ドリームズ

【NPO東海道・吉原宿（吉原商店街）】

所在地：静岡県富士市

会員数：80名（吉原商店街振興組合）

店舗数：130店

商店街の種類：地域型商店街

URL: <http://www.yoshiwara.net/>

【この商店街にこの人あり】



NPO東海道・吉原宿

代表理事 佐野 荘一

吉原商店街で生まれ、子供の頃から商店街を遊び場として育った。商店街活動にも深く関わったが、商業者だけで考える商店街活性化に限界を感じ、新たな担い手を巻き込むための器としてNPOを立ち上げる。

【うちの商店街、ここが自慢】

・空き店舗が開くシャッターアート

日本中からアーティストが集結。空き店舗オーナーの理解度がわかるという効果もあり、シャッターアート実施店に新規出店が続出した。

・ヨシワラ・パフォーマンス・オブ・ドリームズ

実行委員長は女子大生、若者が仕切るまちなかライブイベントとして開催。地元で活躍するミュージシャンが多数登場し、大音響で盛り上げる。音楽だけでなく、Xスポーツのイベントにも発展している。

「平成の古都」と名付けられた 美しい和風の街並み

！ここがポイント

個人的な利害よりも街の将来像を優先させようという住民の思いが街作りを成功させ、商店街を活性化へと導いた。



身延駅前しょうにん通り商店街

【取り組みの背景】

身延町は日蓮宗総本山である身延山久遠寺を擁する門前町であり、その玄関口である身延駅周辺の商店街も身延駅前通り商店街として賑わいを見せていた。世の中がマイカー時代になり鉄道利用者が激減する中で、身延山を中心にした参詣者や観光客が目的地まで車で訪れるようになったが、商店街の通りは道幅が狭いうえ歩道が無く、また電柱が犂めき合い、駐車スペースが少ないなど自動車に対応しているとは言いがたい状態であったため利用者や売上が減少していった。

【取り組みの概要・経過】

昭和50年代から商業者が中心になり、行政に

対して駅前地域再開発を陳情していたところ、昭和61年に行政より区画整理事業の提案があった。2年間に亘る住民同士の議論の結果、「個人的な利害よりも街の将来を優先して考えよう」と意見が一致し、100%の同意により事業がスタートした。

統一した街並み形成を目指し、住民同士の紳士協定として「和風」をコンセプトにした10項目の建築申し合わせ項目を定めた。①和風をイメージした建築、②屋根は瓦風に、③色彩は白灰色黒の範囲で、④壁の一部になまこ壁を、⑤各戸に家紋を、等々。

足掛け12年の歳月をかけ、平成9年「平成の古都」と名付けた美しい和風の街並みが完成した。

駅前広場、ポケットパーク、駐車場、来街者のための無料休憩所も建設し、人力車も復活させた。



我が国初の郵便ポストを再現

【取り組みの効果】

ばらつきのあった風景が統一され、また段差解消によるバリアフリーや人力車サービスなど年配者に優しい町並みとなった。

また、作り直した町並みのため、シャッターを閉めている商店が少ないことも功を奏している。全国各地からの視察者は後を絶たず、各商店は不景気風も一向に気にせず元気に営業を行っている。

平成13年には「平成の古都づくり」が認められ国土庁長官賞を受賞した。

【今後の課題など】

身延バイパスが開通したことから商店街をスルーして身延山へ行くマイカー利用者が増加傾向にある。さらに中部横断自動車道身延インターチェンジが商店街南部にも予定され、また、対岸にある国指定重要文化財・大野山本遠寺が5年の歳月をかけ修復を完了、身延山久遠寺の五重塔も完成と明るい話題も多く、商店街を通して身延山へ向かうマイカー利用者をどれだけ呼び込むことができるかが課題となる。



万灯講まつりの様子

【身延駅前しょうにん通り

商業協同組合】

所在地：山梨県南巨摩郡身延町

会員数：37名

店舗数：29店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL:<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/kumiai/minobu/>

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・ 自然を背景にした和風の街の美しさ
- ・ 歩道上にワイン樽のフラワーポットを並べ、季節ごとに花を絶やさないよう植え替えている。
- ・ 希望に応じた人力車の運行
- ・ 「願い橋」・「叶え橋」での絵馬祈願
- ・ さくら祭り
- ・ ザ・しょうにんまつり
- ・ 万灯講まつり
- ・ 駅前広場やポケットパークの清掃を女性部が当番制で担当、環境美化に努めている。
- ・ しょうにん会館を開放して、地域の絵画教室やパソコン教室として利用されている。



願い橋



しょうにん会館

全国初商店街カードと 行政・金融が連携し地域貢献!!

！ここがポイント

ICカードによる電子マネーからスタートし、住基カードとの連携で商業振興から地域貢献に寄与、行政区・地域を越えたカード連携展開で消費者の利便性を追求。



つれてってカード

【取り組みの背景】

平成5年駒ヶ根市に全国規模の郊外型大店舗が出店し、その影響で地元商店の売上げ低迷が続き後継者不足・閉店が続いた。

当時、証紙と台紙のスタンプ方式で運営していた駒ヶ根スタンプ協同組合は翌年の平成6年から地域商店街の情報化対策を検討するため、「カード研究委員会」を発足。

全国各地のカード事例を研究し、IT化への対応と地域通貨としてのカード運営に着手した。結果、英国スウィンドンで世界初のネット型カードマネーとして開発されたシステムを基本に、国内初の電子マネーを地域行政と地元金融機関と協力しICカードにより構築。地元

商店結束の必要性、地域消費者へのサービスアップ、新規顧客創造のためカードによる情報化をスタート。

【取り組みの概要・経過】

平成8年10月、駒ヶ根市全域の商店を網羅する加盟店とICカードシステムでスタート。2年後の平成10年には近隣の飯島町のスタンプ組合と合併、組合名称も広域性を考慮し「つれてってカード協同組合」に変更、翌年には近隣の中川村スタンプ組合とも合併した。

組合の利用地域拡大と共に行政窓口や公共機関（病院・文化施設・温泉・交通機関）でのカード利用を可能とし、地域内での汎用通貨として利用者の利便性向上に努めた。

また、地域金融機関との連携により電子マネーであるプリペイドの利用が地域の消費者に定着し、地域内の資金循環が活発になった。

平成14年にはIT装備都市実験事業にてシステムをリニューアルし、行政での福祉サービス及び文書管理システムを搭載。更に平成19年の第2次のリニューアルからは、関係市町村の発行する住民基本台帳カードへ「商店街カード機能」を搭載した「多機能型つれてってカード」を発行した。

さらに20年からは近接する伊那市で同様に展開す

る「い〜なちゃんカード」とも利用提携を開始し、伊南4市町村全てで利用者がどのカードでも共通のポイント・プリペイドサービスが享受可能になった。

【取り組みの効果】

確度の高い利用者情報の把握により、利用地域内の商店街の情報分析を可能にした。

地域商店街の連携と行政・金融のタイアップ効果で地域商店街が活性化した。

加盟店と組合の強固な結束で消費者のカード利用率が毎年向上し続けている。

【今後の課題など】

カード情報の利用推進で商店街の後継者育成に繋がる加盟店のスキルアップ。

エコポイント導入による地域貢献を行政・金融・商店街で協力推進する。

住基カードとの連携で全国規模での商店街提携カードサービスを試みる。

＝地域内における戦略的連携の構築＝

分析した情報を顧客サービスにフィードバックし、組織の能力を向上させる。

個々の組合員（個店・加盟店）での売上増、利用者へのサービス向上を組織として集約・分析し、来街者のイメージ顧客を創造する。

ポイントを購買に利用し、商店街繁栄から組織力向上を行い更に地域貢献に繋げてゆく。

＝具体的な方策＝

利便性向上：電子マネー利用

情報収集・活用：カード利用

コスト削減：クレジット一括処理

組織力強化：商店街向けWEB サイト

地域連携：地域内関係組織との協力

地域の課題解決：環境保全、エコポイント

発進力強化：ホームページの活用

売上げ増進：インターネット販売

【つれてってカード協同組合】

所在地：長野県駒ヶ根市・飯島町・中川村

会員数：183名

店舗数：175店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL:<http://www.turetette.jp/>

【この商店街にこの人あり】



矢澤理事長の似顔絵（実物は？）

お客様視点で、ICカードの立ち上げから・・・地域を越えた連携カードシステム構築のリーダーとして活躍。

【うちの商店街、ここが自慢】

・「いつでもどこでもつれてって」をキャッチフレーズに、地域内での汎用価値としてカードを推進。地域商店街は組織力が全てです。

・地域内の関係組織の連携・協力が商店街を活性化しています。

・利用者の声に応え、地域貢献の輪を拡大していきます。

地域住民の利益が優先、地域密着 顧客創造型商店街づくり!!

！ここがポイント

「手作り・手仕事・技の街。地域と共存し、共に生き、働き、暮らす街をつくる」をコンセプトに、商店の利益より地域住民の利益を考えた地域密着顧客創造型商店街。



地域コミュニティ施設「おいでなん処」

【取り組みの背景】

昭和40年代から道路拡幅や防災建築街区造成事業指定を受け、商店街近代化がすすむ中で店舗集積と繁栄が続いていたが、上信越自動車道整備と平成9年の長野新幹線佐久平駅開業による周辺地区の商業集積がはじまり、岩村田地区から大型店が移転するなど、平成10年以降急速に賑わいの中心移動が進んだ。

その地殻変動が始まりつつある平成8年、危機感を感じた若手経営者・後継者により商店街組織改革の機運が高まり、当時、理事の平均年齢が36.7歳という全国で最も若い振興組合が誕生。地域密着顧客創造型商店街を目指して各種取組を始めた。

【取り組みの概要・経過】

- ・H14年 地域に公民館がなかったため、地域住民とのコミュニケーションの場として、空き店舗を活用した地域コミュニティ施設「おいでなん処」を開設。
- ・H15年 近隣の大型スーパーが移転し生鮮三品を買える店舗が無くなったため、空き店舗を活用し振興組合直営の地域密着型食料品店舗「本町おかず市場」を開設。
- ・H16年 商店街のコンセプト「手作り、手仕事、技の街」をもとに、空き店舗を活用したチャレンジショップ「手仕事村」を開設。
- ・H18年 「安心して子育てができる街」をコンセプトとして、空き店舗を活用し商店街としては全国初の「子育て村」を開村。協賛店から会員へ各種サービス・特典を提供するほか、商店街のプロの技を活かした体験講座型イベントを開催するなど子育て世代への支援事業を行っている。



・H21年 子育て支援と空き店舗活用の一環として、地元の学習塾に運営を委託し、「自主学习ができる子どもを育てる」をコンセプトに、小学生を対象とした基礎学力を身に付けるための学習塾「岩村田寺子屋塾」を開校。

【取り組みの効果】

「おいでなん処」は買い物の休憩場だけではなく、地域のサークル活動・イベント・催事等、地域住民との交流の場として多くの人に利用されている。

「おかず市場」は、商店街における生鮮三品の供給不足を補うだけでなく、お客とのコミュニケーションを図ることで、商店街の核としての役割を果たす。店舗づくりや資金繰りなどの財務についての勉強会を積み重ねたことで、組合員同士の一体感や責任感が醸成された。

「手仕事村」の卒業生がいずれも街区内の空き店舗に独立開業したことで、空き店舗が一気に埋まった。また、若い創業者による新しい業種業態ができることで、商店街のリフレッシュにも繋がる。

「子育て村」はマスコミにも注目され、商店街のイメージアップに繋がった。また、協賛店においては、子育て支援に視点を当てた自店の商品やサービスについての情報発信をすることにより、消費者との繋がりを深められた。

【今後の課題など】

・「歴史まちづくり法」を活用した歴史と文化のまちづくり構想を地元佐久市と協議。安全・安心に住めるまちづくりと地域とともに生き、魅力ある店の集合体としての商店街をめざしている。

・魅力ある商店街とは、いかに魅力ある集合体であるかということに尽きる。魅力ある商店街づくりのためには、個店が個々の魅力を高める必要があり、そのための勉強を常に欠かさないことが大切である。

【岩村田本町商店街振興組合】

所在地：長野県佐久市

会員数：59名

店舗数：47店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL:<http://www.iwamura.com/index.html>

【この商店街にこの人あり】



岩村田本町商店街振興組合 理事長
(長野県商店街振興組合連合会理事長)

阿部 眞一

自分達の商店街は自分達で創っていく、経営していく心構え、物事を具現化する実務能力、そして、実践実行という行動力により、地域と共存し、共に生き、働き、暮らす街をめざしております。

【うちの商店街、ここが自慢】

・「おいでなん処」「本町おかず市場」「手仕事村」「子育て村」など、商店街が地域のために開設する各施設。



↑チャレンジショップ「手仕事村」